

イネいもち病菌に対するQoI剤感受性検定結果

平成25年12月26日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 目的

平成24年度に、九州、中国、四国地方の一部の県で、QoI剤に対する耐性いもち病菌の発生が確認されています。QoI剤は、県内においても一部地域で普及していることから、今年度、農業協同組合、県農林水産事務所農業改良普及課などの協力を得て、耐性菌の発生状況を調査しました。

※QoI剤：ストロビルリン系殺菌剤。水稻用では、アゾキシストロビン剤（アミスター）、オリサストロビン剤（嵐）、メトミノストロビン剤（オリブライト、イモチエース）及びこれらの成分を含む混合剤。

2 方法

(1) 調査ほ場

県内31ほ場（西三河地域21ほ場、東三河地域10ほ場）

(2) 検定薬剤

QoI剤のうちのオリサストロビン剤

(3) 検定方法

各ほ場で採取した罹病葉から、イネいもち病菌を単孢子分離・培養し、薬剤添加培地で検定を実施（図）。

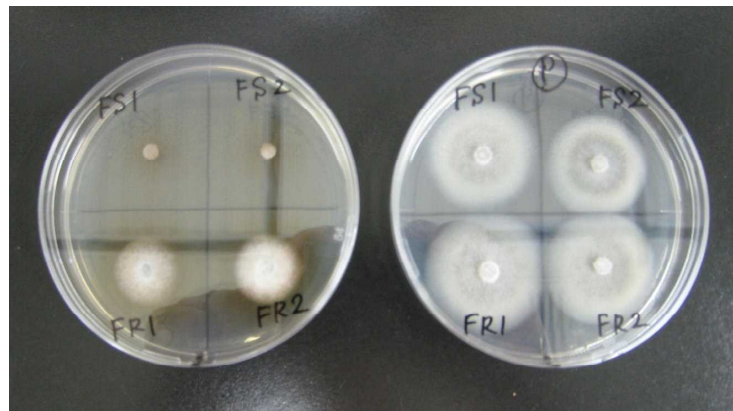


図 イネいもち病に対するQoI剤感受性検定の様子（移植5日後）
左：オリサストロビン添加培地、右：無添加培地
各培地の上段は感受性菌株、下段は耐性菌株

3 結果

分離した120菌株を検定した結果、全ての菌株で薬剤添加培地上での菌糸の生育は認められませんでした。この結果から、今回調査したほ場では、QoI剤耐性菌は発生していないものと考えられます。

4 今後の計画

平成26年度も平成25年度と同様の感受性検定を実施し、QoI剤耐性菌の発生状況を調査する予定です。